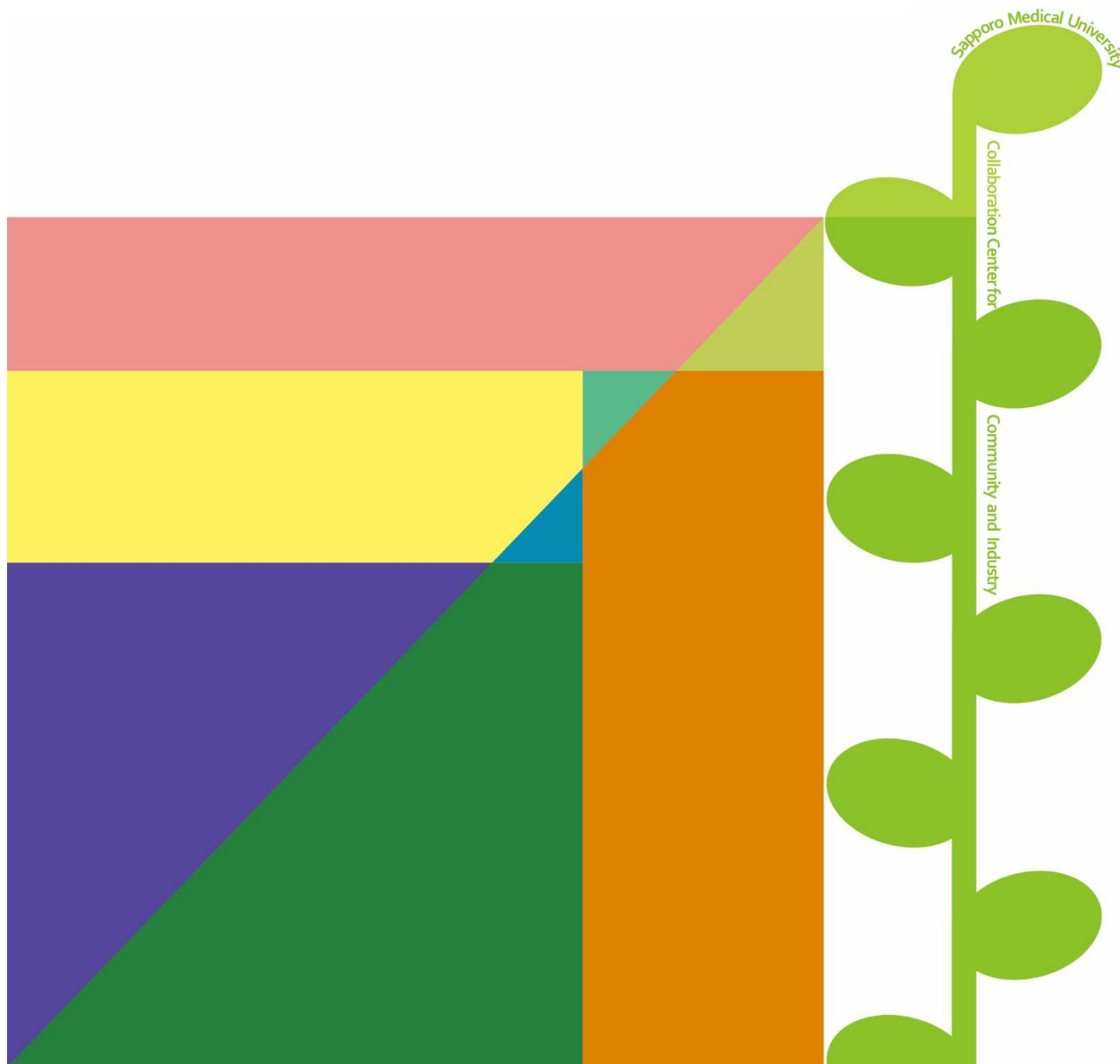




北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

平成29年度 活動報告書

北海道公立大学法人 札幌医科大学
附属産学・地域連携センター



産学・地域連携センター

-平成29年度の取り組み-

札幌医科大学附属産学・地域連携センターは、産学・地域連携、寄附金、知的財産管理の3部門からなる組織により構成され、産学・地域との連携を通じ、本学の研究活動を地域に還元する重要な役割を果たすため、本学の研究を支えることを目的として業務を進めています。

産学・地域連携部門では、研究に係る外部資金獲得及び経理・管理を行っています。平成29年度では文部科学省及び厚生労働省の国費研究助成が270件、寄附金が847件、受託研究と共同研究76件が新たに本学に提供され、研究推進の原動力となっています。また、企業からの寄附金により寄附講座が設置されており、一層の研究推進が期待されているところです。一方、研究費及び研究活動に関する不正防止プログラムに基づき、競争的資金の適正な執行に関する理解の促進や、研究活動上の不正行為の防止を図るための取組を推進しました。

寄附金部門では、医学教育・学術研究等の奨励のためにいただいた寄附金に係る業務全般を担っています。また、寄附金を活用して学術振興事業を実施し、本学の教育研究活動や国際交流、公開講座等の開催事業等に貢献しています。

知的財産管理部門では、本学先端医療知財学教授かつ弁理士である石埜教授の指導のもと、本学研究グループからの求めに応じ、ライフサイエンス等における技術や法律に関する助言を行い、価値の高い知的財産の創出に尽力しています。その結果、教職員の知的財産に対する認識はさらに深まり、平成29年度に取得した特許権は15件、基礎出願8件、国際出願6件、外国出願15件、意匠権3件となりました。また、最先端の基礎研究を臨床に応用する「橋渡し研究」を支援する組織「本学臨床研究推進本部」では、北海道臨床開発機構、北海道大学臨床研究開発センター及び旭川医科大学教育研究推進センターと連携しながら、研究活動をサポートしています。

最も実用化に近い脊髄損傷患者に対する細胞療法(本学医学部整形外科学講座・山下敏彦教授)、脳梗塞患者に対する細胞療法(医学部附属フロンティア医学研究所神経再生医療学部門・本望修教授)及びヒトがんペプチドワクチン療法(医学部病理学第一講座・鳥越俊彦教授)に対する支援を筆頭に、それに続く本学発の多くのシーズを支援しています。学術研究が医薬品・医療機器へと実用化されるにあたっては、薬事法に関する専門的な知識と経験が求められることから、薬事法に精通した特任助教を当センターに配置するなど、研究支援体制の充実に努めています。

平成29年度の活動報告を通じ、学内外の皆様、本学の学術研究活動や地域医療の充実に向けた取組等をご理解いただければ幸甚に存じます。今後も、研究支援という使命を果たすべく、地道な啓蒙と業務を積み重ねていく所存ですので、引き続き、皆様方のさらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。



平成30年4月
札幌医科大学附属産学・地域連携センター長
医学部薬理学講座教授
堀尾 嘉幸

目 次

巻頭言	産学・地域連携センター ―平成29年度の取り組み― 附属産学・地域連携センター長 堀尾嘉幸……………	1
1. 附属産学・地域連携センターの概要		
(1)センターの活動……………		4
(2)平成29年度活動の記録……………		5
(3)各種所管・関連委員会……………		6
(4)ポリシー……………		6
(5)規程等……………		7
2. 活動実績		
【産学・地域連携】		
(1)外部研究費の状況……………		10
(2)寄附講座……………		11
(3)連携協定等……………		12
(4)寄附金……………		14
(5)各種展示会出展報告……………		15
(6)セミナー開催報告……………		18
【知的財産管理・活用】		
(1)特許出願実績……………		20
(2)研究シーズ……………		21
(3)外部講師による知財講義の開催……………		22
(4)トランスレーショナルリサーチについて……………		23
3. 活動レポート		
知的財産・橋渡し研究支援の活動状況		
---知的財産・橋渡し研究支援等の29年度活動および今後について		
附属産学・地域連携センター 部門長		
医学部先端医療知財学 教授 石埜 正穂……………		28

1. 附属産学・地域連携センターの概要

(1) センターの活動

産学・地域連携

[科研費／国費／民間財団助成金]

学内研究者支援のため、研究費助成に関する公募情報を、センター通信やホームページでいち早く周知するとともに、申請書作成レクチャーや公募要領等説明会の実施、研究費の経理事務等を行っています。

[寄附講座]

企業等からの寄附金を活用して、本学が研究等の進展及び充実に図り、地域社会に貢献することを目的に設置・運営を行うもので、資金の受入や経理事務を行っています。

[共同研究／受託研究]

本学の研究シーズを国内外の研究者・研究機関に紹介し、共同研究・受託研究の推進を図っています。また、共同研究・受託研究の受け入れから契約書の締結、経理事務などを一括して支援しています。

[大学間・地域連携]

他大学・機関及び地域と連携し、教育研究・産学連携の推進を支援しています。これまでに、小樽商科大学、北海道医療大学、室蘭工業大学、はこだて未来大学、ノーステック財団、別海町、釧路市等と連携協定を締結しています。

[寄附金]

企業や団体・個人等から受け入れる寄附金は、本学の学術教育研究の発展、医学教育設備の充実、附属病院の環境改善等に役立てられています。また、研究教育活動や国際交流活動の充実強化を図るため、奨学寄附金の一部を活用し、本学教員等が行う教育研究、海外派遣・受入、短期留学、国際医学交流、公開講座開催等を支援する学術振興事業を行っています。

知的財産管理

本学の研究成果を特許等として適切に権利化し、管理しています。また、特許取得に向けた研究戦略や技術移転についての相談に随時対応しています。他大学、他機関との研究試料の提供に必要なMTA（研究成果有体物に係る契約）の締結事務についても行っています。

[知財教育]

大学院生をはじめとする医学研究者や地域医療従事者を対象とした知財教育を実施しています。受講者の多様なニーズ・意欲に対応したコース設定で、基礎知識から技術移転の実務までの内容となっています。

[橋渡し研究支援]

本学、北海道大学及び旭川医科大学が連携して取り組んでいる「オール北海道先進医学・医療拠点形成」等の橋渡し研究を支援しています。

(2) 平成29年度 活動の記録

日 時	内 容
6月19～22日	BIO International 2017 (米国サンディエゴ)
7月20日	北洋銀行ものづくりテクノフェア2017 出展 (アクセスサッポロ)
9月12日	平成29年度科研費申請書作成レクチャー開催 (札幌医科大学)
9月20日	平成29年度科学研究費助成事業公募要領等説明会 (第1回) 開催 (札幌医科大学)
9月25日	平成29年度科学研究費助成事業公募要領等説明会 (第2回) 開催 (札幌医科大学)
10月11～13日	Bio Japan 2017-World Business Forum 出展 (パシフィコ横浜)
11月9～10日	第31回北海道技術・ビジネス交流会 出展 (アクセスサッポロ)
2月1日	第1回コンプライアンス教育研修会 (札幌医科大学)
2月5日	第2回コンプライアンス教育研修会 (札幌医科大学)

(3) 各種所管・関連委員会

学 内

- (1) 知的財産活用委員会
- (2) 発明審査会
- (3) ヒトゲノム・遺伝子解析研究審査委員会
- (4) 遺伝子組換え実験安全委員会
- (5) 指定実験室管理運営委員会
- (6) 利益相反管理委員会
- (7) 産学・地域連携センター運営委員会

学 外

- (1) 北海道臨床開発機構運営委員会
- (2) medU-net 医療系産学連携ネットワーク協議会
- (3) 全道産学官ネットワーク推進協議会
- (4) 北海道地域大学等知的財産部門連絡会議
- (5) 北海道医療福祉産業研究会

(4) ポリシー

<産学連携関係>

- 産学連携活動に係る札幌医科大学利益相反ポリシー
- 札幌医科大学産学連携ポリシー
- 札幌医科大学地域連携ポリシー

<知的財産関係>

- 札幌医科大学における知的財産の扱いについての基本的な考え方
(札幌医科大学知的財産ポリシー)

(5) 規程等

<産学連携関係>

- 札幌医科大学附属産学・地域連携センター運営規程
- 札幌医科大学寄附講座・研究部門設置規程
- 札幌医科大学寄附講座・研究部門設置細則
- 札幌医科大学における寄附講座等に関する規程
- 札幌医科大学特設講座設置規程
- 北海道公立大学法人札幌医科大学利益相反管理規程
- 北海道公立大学法人札幌医科大学利益相反管理規程に基づく利益相反管理委員会設置要領
- 札幌医科大学における競争的資金等の使用に関する不正防止プログラム
- 札幌医科大学における競争的資金等の使用に関する不正防止プログラムに基づく不正調査委員会設置運営要領
- 札幌医科大学における競争的資金等の使用に関するコンプライアンス及び研究倫理教育研修実施要領
- 北海道公立大学法人札幌医科大学における研究活動に関する不正防止プログラム
- 北海道公立大学法人札幌医科大学における研究活動に関する不正防止プログラムに基づく調査委員会設置運営要領
- 北海道公立大学法人札幌医科大学における研究活動に関する不正防止プログラムに係る研究活動実施要領
- 札幌医科大学研究費補助金等事務取扱要領
- 札幌医科大学研究費補助金等による旅費の取扱要領
- 札幌医科大学における厚生労働省科学研究費補助金の旅費の取扱いについて
- 札幌医科大学客員研究員規程
- 札幌医科大学研究員制度事務取扱要領
- 札幌医科大学における日本学術振興会特別研究員取扱要綱

＜共同研究・受託研究等＞

- 札幌医科大学共同研究取扱規程
- 札幌医科大学受託研究等取扱規程

＜寄附金関係＞

- 北海道公立大学法人札幌医科大学寄附金規程
- 札幌医科大学学術振興事業要綱

＜知的財産関係＞

- 札幌医科大学教職員の勤務発明等に関する規程
- 札幌医科大学知的財産活用委員会規程
- 札幌医科大学教職員に係る大学有特許権等の実施許諾及び処分要領
- 札幌医科大学教職員に係る勤務発明等に係る収入配分要領
- 札幌医科大学発明審査会規程
- 札幌医科大学研究成果有体物取扱規程

＜その他＞

- 札幌医科大学遺伝子組換え実験の安全確保に関する要綱
- 札幌医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究規程
- 札幌医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究審査委員会規程

2. 活動実績[産学・地域連携]

(1) 外部研究費の状況

1. 受託研究・共同研究

当センターでは、札幌医科大学の研究水準の向上と社会貢献の促進として共同研究・受託研究の推進を図っており、共同研究・受託研究の受入、契約書締結、研究費執行を一括して行っております。

また、より臨床的な研究を主体とする受託研究（一般研究）についても、契約書締結から研究費執行までを行っております（治験や製造販売後調査を除く）。

平成29年度は、共同研究20件、受託研究32件、一般研究24件、合計で76件の研究契約を締結し、平成28年度以前からの継続されている研究も含め、約371,450千円の研究費の執行及び管理を行いました。

2. 科学研究費・国費・財団等助成金

前述の受託研究・共同研究に加え、科学研究費や国費、財団等からの助成金獲得のサポートとして、科研費申請書作成レクチャーや、ホームページを利用した公募情報提供などを行っております。また、研究者が獲得した科学研究費や一部の国費・助成金の執行・管理を行っております。

区 分	件 数	金額（千円）
国等受託研究	39	127,324
共同研究	50	120,280
一般受託研究	91	39,346
文部科学省科研費（代表・分担）	247	447,642
厚生労働省科研費（代表・分担）	23	29,854
長寿医療研究開発費（分担）	1	1,500
財団等助成金	10	17,340
合 計	461	867,786

表：平成29年度に執行・管理を行った新規・継続課題の外部研究費（間接経費含む）

(2) 寄附講座・特設講座

寄附講座及び特設講座は、産学連携の推進や奨学を目的とする企業からの寄附金や、北海道などからの資金提供を基に、本学の学術研究活動の進展と充実を目的として設置されるものです。平成30年3月現在、以下の寄附講座が設置運営されています。

寄附講座の概要

生体工学・運動器治療開発講座

運動器疾患治療の臨床面での困難な問題に対して、臨床的アプローチのみならず基礎的研究手法を応用し、課題を解決する。

寄 附 者：スミス・アンド・ネフュー・オースペディックス株式会社

ジンマー・バイオメット合同会社

設 置 期 間：平成24年4月～平成31年3月

予 定 総 額：171,300千円

アイン・ニトリ

緩和医療学推進講座

緩和医療・ケアにおける多職種連携によるチーム医療の普及と発展を推進する。

寄 附 者：株式会社アインホールディングス

株式会社ニトリ

設 置 期 間：平成25年4月～平成31年3月

予 定 総 額：90,000千円

再生治療推進講座

自己骨髄細胞を利用した脳梗塞や脊髄損傷等の再生医療の実用化に向けた製造設備や資材開発、品質検査方法の確立などの技術開発を行うとともに、治験薬製造を行う。

寄 附 者：ニプロ株式会社

設 置 期 間：平成26年2月～平成32年3月

予 定 総 額：1,080,000千円

北海道病院前・航空・災害医学講座

病院前救護や、救急救命士等救急隊員教育プログラムの開発、また、北海道の航空医療体制確立を図るための研究、さらに、北海道の災害医療を研究するとともに、災害医療従事者の教育プログラムを開発する。

設 置 期 間：平成28年4月～平成33年3月

予 定 総 額：82,500千円

(3) 連携協定等

当センターでは、他の大学、研究機関及び地域と連携し、教育研究・産学連携の推進を支援しております。本学においては、これまで下記のような連携協定等を締結しております。

名称・相手先・調印日	目 的
文理融合による連携協力に関する協定 [小樽商科大学] 平成17年10月1日	大学の研究成果をより積極的に地域・社会に還元していくため、文理融合による連携活動に関する包括的協力を促進し、豊かで活力ある社会の発展に寄与する。
教育・学術・地域貢献に関する連携協定 [北海道医療大学] 平成19年3月29日	両大学の教育・研究・医療実践等の実績を基盤に、保健と医療と福祉を統合的に捉えることのできる新たな時代に対応する質の高い医療人教育、医療科学分野における学術・研究の進展、社会が求める充実した医療サービス・各種情報の提供などを通して、地域社会に貢献する医療人を育成する。
包括連携協定 [室蘭工業大学] 平成19年11月20日	医療器具等の開発や改良の取り組みを通じ、両大学が共同で研究、教育、地域貢献を展開していく。
業務連携協定 [財団法人北海道科学技術総合振興センター] 平成20年3月25日	本学の知的財産や人材と、ノーステック財団の各種コーディネート力等を活用し、本学における研究開発の推進、産学連携による事業化・商品化の促進等を図る。
包括連携協定 [公立はこだて未来大学] 平成20年9月12日	患者の視点・立場に立脚した情報支援・案内システムの構築等を通じ、両大学が共同で研究、教育、地域貢献を展開していく。
教育連携協定 [別海町] 平成21年3月20日	別海町における市民向けの公開講座、中・高・大連携教育、チーム医療実習、遠隔医療等を推進する。
学術連携協定 [早稲田大学スポーツ科学学術院] 平成21年6月18日	両大学の教育研究活動の一層の充実と質の向上および相互の研究交流を促進し、スポーツ医科学に貢献できる人材の育成を図り学術の発展に寄与する。
連携協力協定 [財団法人全日本スキー連盟] 平成21年8月21日	スポーツ医科学と競技力の向上に寄与するとともに、国民の健康増進ならびに地域貢献に資するための具体的な協力を推進していく。
連携協定 [利尻富士町] 平成24年3月26日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。

名称・相手先・調印日	目 的
連携協定 [市立室蘭総合病院] 平成25年4月17日	「大学連携顕微鏡手術トレーニングセンター」を通じ、顕微鏡手術における若手医師養成及び手術の安全性と治療効果の向上に寄与する。
連携協定 [利尻町] 平成25年5月20日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。
連携協定 [留萌市] 平成25年5月22日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。
連携協定 [中津別町] 平成25年6月6日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。
連携協定 [興部町] 平成25年6月6日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。
連携協定 [紋別市] 平成25年7月4日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。
連携協定 [室蘭市] 平成25年8月20日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。
連携協定 [財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会] 平成26年6月23日	2020年に開催する東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、大学と組織委員会がそれぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取り組みを進めるため、相互の連携・協力体制を構築する。
連携協定 [釧路市] 平成27年6月9日	両者の自主性を尊重した連携関係のもとで相互に協力し、住民の健康と福祉の向上並びに人間性豊かな医療人の育成に寄与する。

(4) 寄附金

●寄附の受入れについて

本学における医学教育、学術研究等の奨励のため、法人や個人の皆様からご協力・ご支援をいただく寄附金には、次の2種類があります。

◆奨学寄附金（指定した講座又は教員が使用するもの）

- ・学術研究に関する寄附
- ・教育研究の奨励を目的とする寄附

◆一般寄附金（大学全体への寄附）

- ・教育研究のため
- ・附属病院の環境改善のため
- ・学生支援のため など

●寄附金の使途について

奨学寄附金の90%は、寄附者様が指定する講座等へ配分し、教育研究経費、研究発表・調査等の旅費、学術研究に必要な機器や研究材料など消耗品や備品等の購入に活用しています。

また、奨学寄附金の10%は、学術振興事業に係る助成金として活用するとともに、寄附金の受入・払出等運営管理に必要な経費に充てられます。

●学術振興助成事業について

奨学寄附金の一部を使用した学術振興事業は、本学教員・大学院生等が行う教育研究、学術研究集会・国際交流セミナー等の開催、海外派遣・受入、短期留学、国際医学交流会や公開講座の開催に係る取組を支援し、医学、健康、医療に対する知識の普及や地域医療への貢献を目指しています。

※平成29年度寄附金受入状況

奨学寄附金	730件	464,674千円
一般寄附金	17件	2,577千円
合計	847件	467,251千円

寄附者(業種)別の内訳

企業	353件	237,107千円
医療法人等	220件	93,525千円
財団法人等	52件	59,717千円
学校法人等	18件	3,107千円
個人	87件	59,874千円
団体	17件	13,920千円

※平成29年度の学術振興事業について

平成29年度は、68件 18,456千円を助成しました。

1 教育研究事業	31件	10,049千円
2 学術集会・国際交流セミナー	10件	2,000千円
3 研究者等海外派遣・受入事業	12件	2,496千円
4 短期留学事業	1件	700千円
5 国際交流懇談会等開催事業	3件	150千円
6 公開講座等開催事業	11件	3,061千円

(市民公開講座風景)



(5) 各種展示会出展報告

【道外展示会】

① Bio Japan 2017—World Business Forum

開催日：平成29年10月11日～13日

場 所：パシフィコ横浜（神奈川県）

出展テーマ（参加者）：心血管・腎・代謝疾患に共通する因子による新規治療法および診断法の開発
(医学部循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座 古橋真人 講師)

BioJapanは平成29年度で19回目の開催となり、日本においてバイオ関連で最もインパクトのある展示会といわれています。展示分野も創薬だけではなく機能性食品や医療機器、環境分野まで網羅し、様々な企画ゾーンがあり多数のセミナーやアカデミックシーズ発表会等が開催されました。平成29年度は、3日間で延べ15,711名の来場があり、パートナーリング商談件数は延べ8,591件、海外からも多くの企業等の出展・商談がありました。

本学では、医学系大学産学連携ネットワーク協議会（medU-net）と連携してmedU-netに参画する他大学とともに、昨年度に引き続きBioJapanに出展しました。上記出展テーマについてポスター展示するとともに、医学部循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座の古橋真人講師が「心血管・腎・代謝疾患に共通する因子による新規治療法および診断法の開発」について、プレゼンテーションを行いました。当日は多くの企業やアカデミアからの訪問を受け、活発な質疑応答を行うことができました。

また、北海道主催の北海道バイオクラスターブースに出展し、ブース内で企業との面接を行い、研究シーズのPRを行いました。

一方で、本フォーラムに参加する国内外の製薬企業へ面談を申込み、本学の研究成果を紹介するとともに、出展案件を含む多数の出願案件について技術紹介を行うことができました。

これらの活動の結果から、アカデミアに対する製薬企業の研究開発における詳しいニーズを知ることができました。また、現在も企業への技術情報の提供と共同研究等の検討が行われています。



【道内展示会】

② 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2017

開催日：平成29年7月20日

場 所：アクセスサッポロ（札幌市）

出展内容：産学連携 医学シーズのチカラを世の中へ ほか

平成18年度から毎年度開催されている本展示会には、札幌医科大学は、ものづくり企業との連携の可能性があること、また、北海道内へのPRを目的に、平成20年度から出展しています。

平成29年度は本学の産学連携活動や知財管理状況の紹介と本学の研究内容を展示いたしました。

会期中は、多くの官公庁や企業の関係者が訪れ、本学の地域における役割を紹介することができました。また、多くの企業関係者との交流を進めることができ、試作開発などで連携可能な企業への本学研究成果の紹介を始めとして、具体的な技術相談を行うことができました。

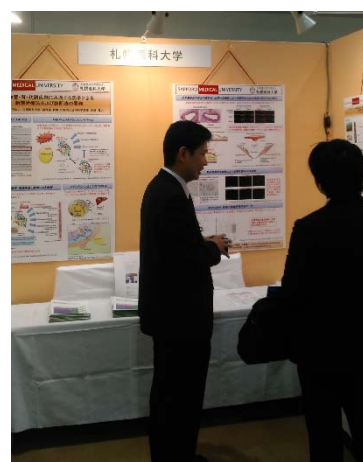


③ ビジネス EXPO「第 31 回 北海道 技術・ビジネス交流会」

開催日：平成29年11月9日～10日

場 所：アクセスサッポロ（札幌市）

平成28年度は、本学の研究成果と産学連携活動や知財管理状況を紹介することを目的に出展しました。毎年継続的に本イベントに出展することで、本学の取り組みを北海道地域へPRするとともに、道内企業等との連携を推進していきます。



【海外展示会】

④ BIO International 2017

開催日：平成29年6月19～22日

場 所：米国サンディエゴ

出展内容：フコース付与キャリアによるがん特異的薬剤輸送システム ほか

本展示会においては、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の支援を受けて出展し、参加している製薬企業への面談申込みを行い、32社と面談により、海外の特許取得済の研究内容を中心に、本学研究成果の紹介することができました。また、会期中は、多くの国の企業関係者が訪れ、交流を進めることができました。展示会後も引き続き検討を進め、共同研究契約の締結に結びつけました。



Biotechnology Innovation Organization
Attn: Accounts Receivable Department
1201 Maryland Ave SW, Suite 900, Washington, DC 20024
Phone: +1.202.962.6655 Fax: +1.202.468.0993 Email: convention@bio.org

2017 BIO International Convention

(6) セミナー開催報告

① 科研費申請書作成レクチャー（学内向け）

開催日：平成29年9月12日（火）

講師：医学部薬理学講座 講師 久野篤史

参加者：学内教員・研究者53名



科研費への応募へ向けて、毎年申請書作成レクチャーを開催しており、平成29年度は学内若手教員を主として53名の参加がありました。講師の久野先生からは、申請書作成に当たっての注意点やコツ、応募に当たっての心構えなどについて詳しい説明があり、また参加者からも質問が寄せられ、熱のこもったレクチャーとなりました。本レクチャーを開催することにより、全学的な競争的資金獲得へのモチベーションの向上や応募書類の質的向上を期待しています。

② コンプライアンス及び研究倫理教育研修会（学内向け）

講演1 本学における研究費等に関する不正防止対策について

講師：新日本有限責任監査法人札幌事務所 公認会計士 松本拓也

講演2 本学における研究活動に関する不正防止対策について

講師：研究倫理教育責任者 医学部長 堀尾嘉幸

第1回 開催日：平成30年2月1日（木）

参加者：学内教員・研究者・事務職員等 290名

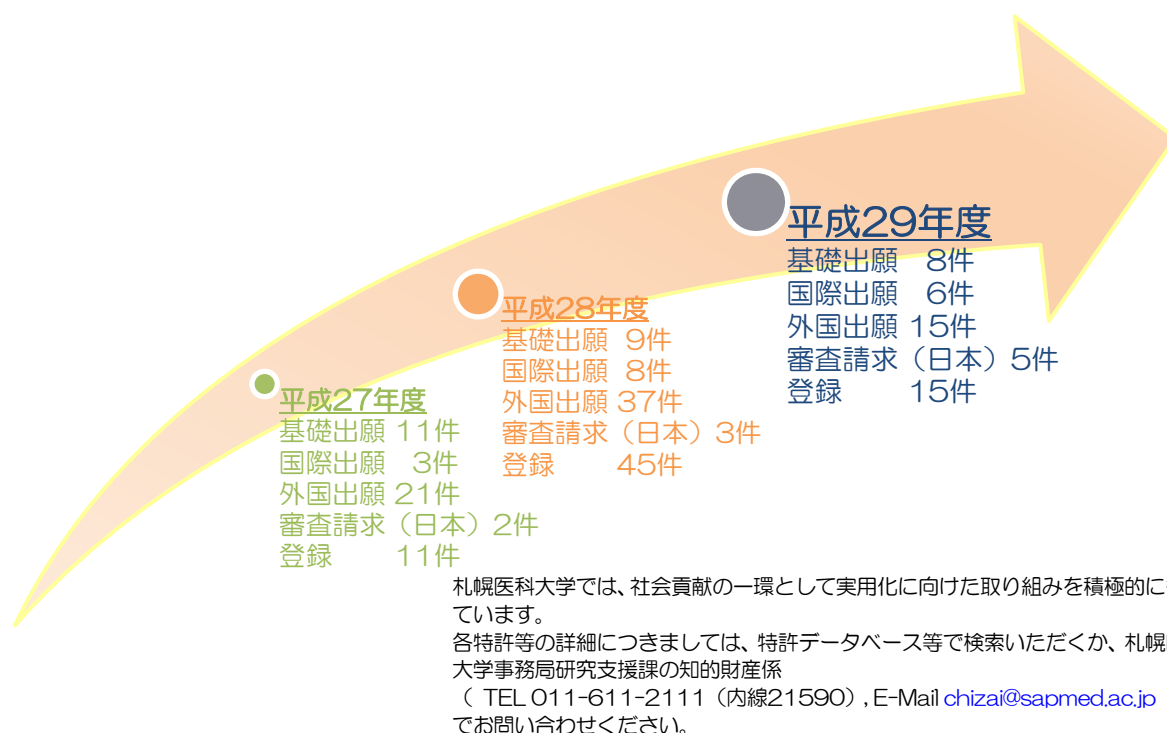
第2回 開催日：平成30年2月5日（月）

参加者：学内教員・研究者・事務職員等 210名

「札幌医科大学における競争的資金等の使用に関するコンプライアンス及び研究倫理教育研修実施要領」に基づき、競争的資金の適正な執行に関する理解の促進及び不正な使用等の事前防止を図るため、コンプライアンス及び研究倫理教育研修会を開催しました。この研修は文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」において競争的資金に関わる全ての構成員の受講が義務付けられており、研修会に参加できなかった者については、後日研修会の内容を映像化したものを配布する等して全員の受講を確認することができました。

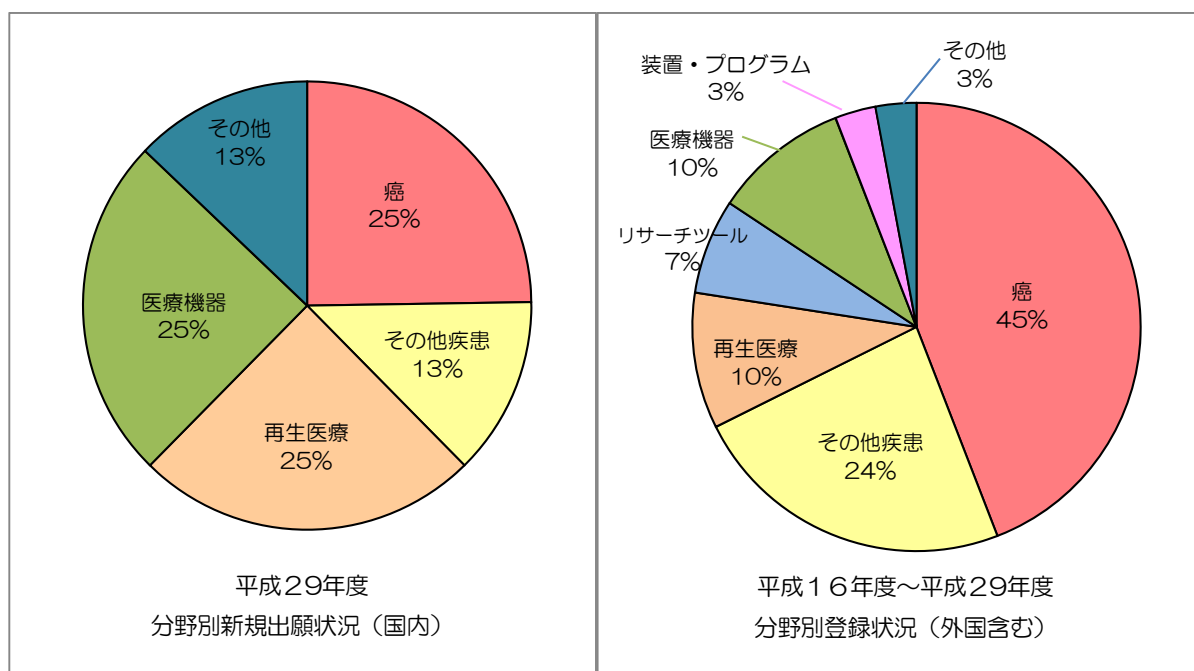
2. 活動実績[知的財産管理・活用]

(1) 特許出願実績



附属産学・地域連携センターでは、特許出願等を介して、札幌医科大学でなされた研究成果の活用を支援しています。特許としての権利化には多くの手間と費用がかかりますが、研究成果を医薬品開発等に役立てるためには非常に重要なステップです。特に医薬・医療分野での開発は国際展開が必要とされており、本学でも積極的に外国出願を行っています。

知的財産管理室が設立された平成16年度から平成29年度まで、総数で約190件の発明・考案・創作について出願がなされています。特許について、平成29年度では以下の円グラフで示されているとおり、幹細胞を用いた再生医療に関する発明が多く、医療機器、リサーチツール関連など多岐にわたります。こうした発明の内容は最先端の医学研究の成果であるため、医学部先端医療知財学教室との連携のもと、適切な権利化を進めます。



(2) 研究シーズ

① 研究シーズマップ

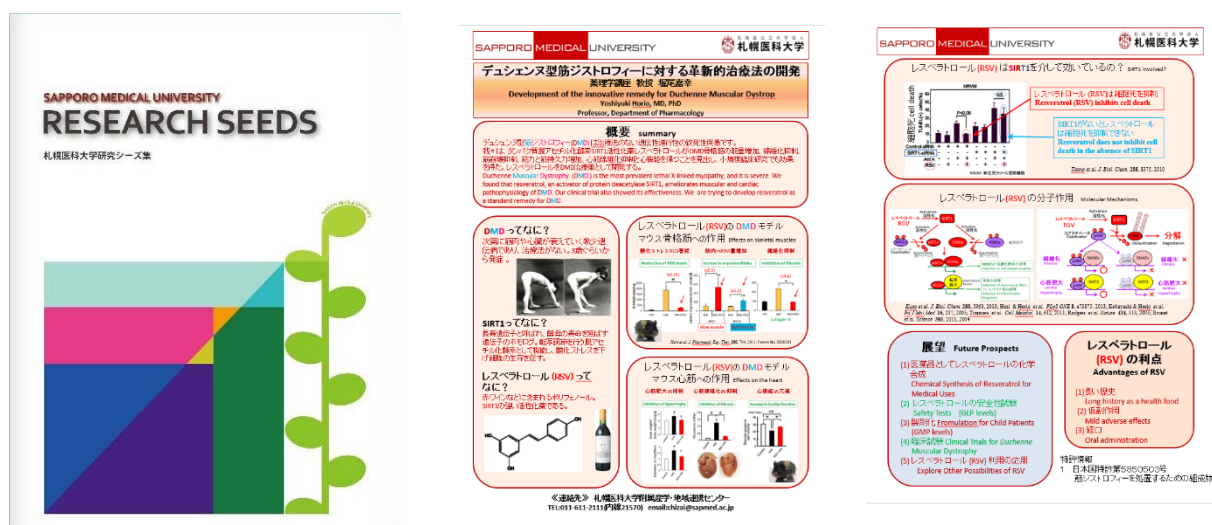
附属産学・地域連携センターでは、本学の保有する研究シーズを広く紹介するため、「研究シーズマップ」を作成しています。平成 20 年以降の科学研究費補助金採択課題を、基礎研究、臨床研究及び保健医療学の各分野について、研究対象及び研究手法ごとに分類してグラフ化し、キーワードから容易に検索が出来るようにしました。※本研究シーズマップは、本センターのホームページから閲覧できます。[\(http://web.sapmed.ac.jp/ircc/cmap/\)](http://web.sapmed.ac.jp/ircc/cmap/)



② 研究シーズリーフレット

学内の各研究室の研究内容や地域貢献への取り組みをまとめた札幌医科大学研究シーズリーフレットの発行を行っています。研究シーズリーフレットは、本学における多様な研究や取組を広く紹介する目的で、各種展示会で他大学、企業、研究機関等の関係者に配布しており、新しい共同研究や産学連携の取り組みを進める契機の一つとなっています。

研究シーズリーフレットに記載している内容は、各研究室の協力を得ながら、定期的に更新しています。研究シーズ等に関するお問い合わせは、本センターまでご連絡ください。



※本研究シーズリーフレットは、本センターのホームページから閲覧できます。
(http://web.sapmed.ac.jp/kikaku/degitalbook/research_seeds/FLASH/index.html)

(3)外部講師による知財講義の開催

平成29年度第1回 知的財産教育講義 平成29年9月4日(月)

『臨床研究の適正な実施に向けた北海道大学病院の取り組み』

【講師】

北海道大学病院臨床研究開発センター長

教授 佐藤 典宏 氏

【講義内容】

平成29年度第1回知的財産教育講義では、「臨床研究の適正な実施に向けた北海道大学病院の取り組み」と題し、北海道大学病院におけるデータセンターやモニタリング等の臨床研究体制の整備、バイオバンクや細胞プロセッシングセンター等の研究開発支援体制の整備についてお話しいたしました。

臨床研究の適正な実施について理解を深めることができ、学生・教員ともに大変有意義な講義となりました。

平成29年度 第1回
知的財産教育講義

**臨床研究の適正な実施に向けた
北海道大学病院の取り組み**

講演内容
北海道大学病院では、臨床研究品質確保体制整備事業の拠点として、データセンターやモニタリング等の臨床研究体制の整備、バイオバンクや細胞プロセッシングセンター等の研究開発支援体制の整備を行っています。本講演では、臨床研究の適正な実施に向けた北海道大学病院の取り組みについてご紹介いたします。

講師
北海道大学病院
臨床研究開発センター長
教授 佐藤 典宏 氏

日時
平成29年9月4日(月)
17:30~19:00

単位認定

会場
教育南棟1階 南第2講義室

皆さまのご参加をお待ちしております。
※学外の方は下記担当までお申込みください。

問い合わせ：札幌医科大学 附属産学・地域連携センター(知的財産)
TEL: 011-611-2111 (内線21590・21070) E-MAIL: chizai@sapmed.ac.jp 担当: 岸/深澤

平成29年度第2回 知的財産教育講義 平成29年11月2日(木)

『産学連携の重要性－医薬品企業がアカデミアに期待すること－』

【講師】

内山務知財戦略事務所所長

弁理士 内山 務

氏

【講義内容】

平成29年度第2回知的財産教育講義では、「産学連携の重要性－医薬品企業がアカデミアに期待すること－」と題し、医薬品の研究開発と知的財産、関連する制度、最近の創業トレンド等について、ご講演いただきました。

知的財産の視点から見たあるべき産学連携について問題提起いただき、知的財産に関してアカデミアにどのようなことを期待されているのか認識する講義となりました。

平成29年度 第2回
知的財産教育講義

**産学連携の重要性
－医薬品企業がアカデミアに期待すること－**

講演内容
近年、医薬品分野の研究開発において産学連携の重要性は極めて高くなってきています。創薬分野においては、研究開発の難易度の上昇などによる大型創薬の減少、バイオロジクスや再生医療の分野においては、技術の多様化・細分化による特許の動向の複雑化、プレイヤーの多様化など、従来の環境が大きく変わってきています。これらのことから、産学連携についても従来のような視点で見えてくる必要になってきていると考えています。本講演では、研究開発型医薬品企業が産学連携において、主に知的財産に関してアカデミアにどのようなことを期待しているのか議論したいと思います。

講師
内山務知財戦略事務所
所長 内山 務 氏

日時
平成29年11月2日(木)
17:30~19:00

単位認定

会場
教育北棟3階 北第2講義室

皆さまのご参加をお待ちしております。
※学外の方は下記担当までお申込みください。

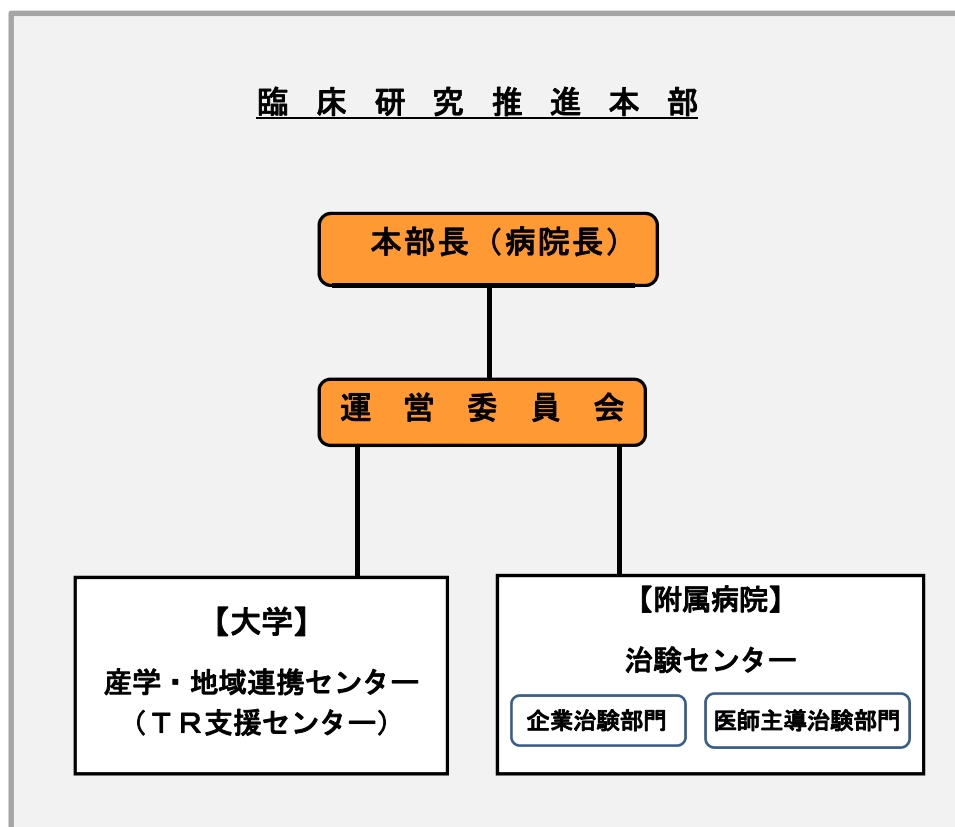
問い合わせ：札幌医科大学 附属産学・地域連携センター(知的財産)
TEL: 011-611-2111 (内線21590・21070) E-MAIL: chizai@sapmed.ac.jp 担当: 岸/深澤

(4)トランスレーショナルリサーチについて

トランスレーショナルリサーチとは、橋渡し研究とも呼ばれ、大学などで研究された基礎研究をアカデミア（研究者・医師）の主導のもと、基礎研究で得られた成果を実用化につなげる研究のことです。

医学研究においては、主に疾病のメカニズムの解明や薬の候補物質の発見などの基礎研究を、実際の患者の予防・診断・治療に結びつける研究がトランスレーショナルリサーチと呼ばれています。

札幌医科大学では、平成 23 年 4 月にトランスレーショナルリサーチセンターを開設し、その後、臨床応用への支援体制として、平成 26 年 10 月には病院長をトップとした「臨床研究推進本部」に改組して臨床応用までの円滑な推進を図る体制とし、研究の推進体制の構築などにあたっています。産学・地域連携センターでは、トランスレーショナルリサーチセンターとして、研究支援業務を行っています。



札幌医科大学臨床研究推進本部では、主に文部科学省から国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）へ移管された「橋渡し研究戦略的推進プログラムプログラム（平成29年度）」において採択されたシーズについて、北海道臨床開発機構、北海道大学臨床研究開発センター及び旭川医科大学教育研究推進センターと協力しながら研究推進活動を行いました。

北海道臨床開発機構は、北海道内のトランスレーショナルリサーチの推進体制を整備する目的で、本学、北海道大学及び旭川医科大学（以下「3大学」という。）により、設立されました（事務局：北海道大学内）。

機構では、臨床開発企画・管理、生物統計、データマネジメント等の各分野の専門家を擁し、安全性の評価、試験物製造の援助、適切な臨床計画立案の指導等の支援体制の整備を進めています。また、3大学で実施されている研究のみならず、全国規模で有望なシーズを発掘し、実用化を目指して支援を行っています。



トランスレーショナルリサーチで実施している研究を世の中に送り出すためには、医師主導治験と呼ばれる方法があります。

医師主導治験については、平成14年の法改正により、これまで製薬企業のみが実施してきた薬の安全性や効果を確認するための試験である「治験」を医師または歯科医師が実施することが可能となり、少しずつ実施件数が増えています。

札幌医科大学では、本学附属病院で以下の医師主導治験を実施し、臨床研究推進本部で一部の業務を行っています。

治験課題名：有効な治療法のない進行膵臓がん患者に対するサバイピン2Bペプチド・インターフェロン併用療法の第Ⅱ相臨床試験

実施診療科：札幌医科大学附属病院第1 外科、東京大学医科学研究所附属病院外科

治験責任医師（自ら治験を実施する者）：水口 徹

被験薬名：SVN-2B

開発フェーズ：第2相

開始年月：平成25年10月

対象疾患：膵臓がん（進行再発膵管がん）

対象患者：①組織学的に上記の対象疾患と確定診断され腫瘍細胞にサバイピンが発現していること

②根治手術が不可能で既に標準的抗がん剤治療（ジェムザールまたはTS-1）を受けていること

③過去にがんワクチンの治療を受けていないこと

④HLA遺伝子がHLA-A*2402であること

⑤同意取得時の年齢が20～85歳であること

等の基準をすべて満たし、当該治験への参加に同意した患者

投与方法：最初の8週間は毎週1回インターフェロンを腹部皮下に注射し、2週間毎に同じ部位にペプチドと免疫補助剤を混合した乳化剤を注射します。ペプチド計4回の投与が終了した2週間後に第1回目の効果確認検査（CTおよびMRI検査）を実施します。腫瘍抑制効果が確認できれば、その後も2週間毎にインターフェロンとペプチド乳化剤の投与を継続し、6週間毎に効果確認検査（CT検査）を実施します。腫瘍の進行が認められた場合は、患者さんの希望によりSTEP2へ移行します。STEP2では、STEP1のグループに関係なく全員がインターフェロンとペプチドの併用投与を受けることができます。STEP1と同様のスケジュールで効果確認検査を実施します。

業務内容：治験調整事務局業務

効果・安全性評価委員会開催支援

文書管理業務 等

※ 本試験は平成28年10月で終了。

治験課題名：(1)脳梗塞患者に対する自家骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与二重盲検無作為化比較試験（検証的試験）

(2) 脳梗塞患者に対する自家骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与単群非盲検試験

実施診療科：札幌医科大学附属病院神経再生医療科

治験責任医師：本望 修

治験分担医師：佐々木 祐典 他13名

被験薬名：STRO1

開発フェーズ：第3相

開始年月：平成25年3月

予定症例数：(1)約110例(2)約60例

対象疾患：脳梗塞（ラクナ梗塞を除く）

対象患者：①年齢が20歳以上80歳未満であること

②歩行や体を動かす動作に介助が必要、または常に介護と見守りを必要とすること

③発症から20日をめどに札幌大附属病院へ転院できること

等の基準をすべて満たし、当該治験への参加に同意した患者

投与方法：患者本人の骨髄間葉系幹細胞を増殖させた細胞製剤を静脈への点滴で投与する。

業務内容：効果・安全性評価委員会事務局業務

治験推進委員会事務局業務 等

治験課題名：脊髄損傷患者に対する自己培養骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与
（第2相試験、非盲検試験、探索的試験）

実施診療科：札幌医科大学附属病院 整形外科、神経再生医療科

治験責任医師：山下 敏彦

治験分担医師：佐々木 祐典 他25名

被験薬名：STRO1

開発フェーズ：第2相

開始年月：平成26年1月

予定症例数：ASIA (A群) 最低5例 目標10例 最大20例

ASIA (B群) 最低5例 目標10例 最大20例

ASIA (C群) 最低5例 目標10例 最大20例

注：ASIA (米国脊髄損傷協会：American Spinal Injury Association)による国際的運動機能障害尺度

対象疾患：脊髄損傷

対象患者：①脊髄損傷発症から2週間以内に、本学附属病院へ入院・転院できること

②脊髄の主な損傷部位が頸髄であること

③画像診断による脊髄の部分的損傷が認められていること（完全離断ではない）

④ASIA機能障害尺度のA～Cに分類されること

⑤年齢が20～70歳であること

等の基準をすべて満たし、当該治験への参加に同意した患者

投与方法：患者本人の骨髄間葉系幹細胞を増殖させた細胞製剤を静脈への点滴で投与する。

業務内容：効果・安全性評価委員会事務局業務

治験推進委員会事務局業務 等

※ 本試験は平成29年2月で終了。

3. 活動レポート

知的財産・橋渡し研究支援等の29年度活動および今後について

札幌医科大学附属産学・地域連携センター 開発部門長

医学部先端医療知財学 教授

石埜 正穂

産学・地域連携センターでは、科研費関連事務（文科、厚労）、企業等の外部資金（共同研究、受託研究）取扱事務、奨学寄附金取扱事務、寄附講座管理、利益相反管理等の実務を行ってきました。また、大学の医療研究における知的財産の創出・取得・管理・活用に関するサポート業務もワンストップサービスで行って参りました。内訳は、特許出願の申請や管理、技術移転、共同研究・受託研究や研究マテリアル移転、秘密保持等に関する契約（交渉・締結・管理）業務などです。また、当センターでは、「橋渡し研究プロジェクト」の事務局も担当してきました。「橋渡し研究プロジェクト」は平成19年度にスタートした文部科学省「橋渡し研究支援推進プログラム」事業を端緒とするもので、27年度から事業実施主体が日本医療研究開発機構（AMED）に移管され、厚生労働省の関連事業と一体的に運用される「革新的医療技術創出拠点プロジェクト」のもと、医師主導治験をすすめるものです。

さて、以上の支援体制ですが、30年度から大きく変わることをお伝えしなければなりません。まず、教員と事務局が一体化していた従来の産学・地域連携センターは解消し、教員組織として生まれ変わります。それとともに「事務局研究支援課」が新設され、従来の産学・地域連携センターで扱っていた事務に加え、病院課および学務課で所管していた研究関連の事務がそこに統合、集約されます。一方で、医師主導治験以外の全ての臨床研究（特定臨床研究を含む）を管轄する「臨床研究支援センター」という教員組織が新設されます。「産学・地域連携センター」、「臨床研究支援センター」、及び企業治験を扱っている「治験センター」は、互いに連携しながら、事務局研究支援課のバックアップのもと、本学の研究の推進・発展に寄与していくことになります。

なお上記改組に伴い、旧「産学・地域連携センター」で対応させていただいた専門的サポート業務のうち、新「産学・地域連携センター」では対応できないケースも一部生じてきます（それらは「臨床研究支援センター」で扱うことになると思われますので、そちらにご相談いただければと存じます）。担当者としては申し訳ない限りですが、何卒ご理解いただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上

関連ウェブサイト(URL)

◆附属産学・地域連携センターTOP <http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

◆研究費獲得関係情報

(1) 各種助成団体等研究助成金

<http://web.sapmed.ac.jp/jp/internal/cms/sangaku/5a0cla00000055o7.html>

<http://web.sapmed.ac.jp/jp/internal/cms/sangaku/5a0cla0000005xwv.html>

(2) 文部科学省科学研究費助成事業

<http://web.sapmed.ac.jp/jp/internal/cms/sangaku/5a0cla0000007wqi.html>

(3) 厚生労働省科学研究費補助

<http://web.sapmed.ac.jp/jp/internal/cms/sangaku/5a0cla0000004lo9.html>

(4) 日本医療研究開発機構（AMED）研究費

<http://web.sapmed.ac.jp/jp/internal/cms/sangaku/5a0cla0000004iz5.html>

◆寄附金 <http://web.sapmed.ac.jp/jp/section/contribution/index.html>

◆知的財産 <http://web.sapmed.ac.jp/chizai/index.html>

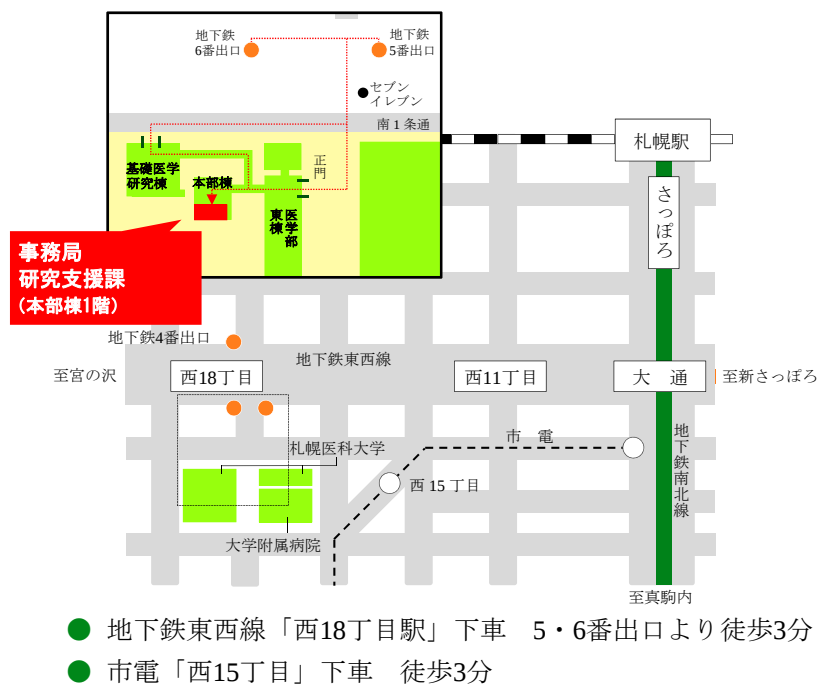
◆札幌医科大学研究シーズマップ <http://web.sapmed.ac.jp/ircc/cmap/>

平成29年度活動報告書

札幌医科大学附属産学・地域連携センター

平成30年6月発行

編集・発行 北海道公立大学法人札幌医科大学事務局研究支援課
お問い合わせ先 〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目
TEL (011)611-2111 (内線 22240)



札幌医科大学 事務局研究支援課

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

TEL(011)611-2111(代表) FAX(011)611-2185

研 究 支 援 係 内線：22240

外 部 資 金 係 内線：21750

寄 附 金 担 当 内線：22280

臨 床 研 究 係 内線：31460

知 的 財 産 係 内線：21590

ホームページ

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc.index.html>